

指導と評価の一体化を目指して 算数

学習指導要領の総則では、「授業の改善」（指導）と「評価の改善」（評価）を一体的に充実させていくことの重要性が示されています。学習評価によって、「児童生徒にどういった力が身に付いたか」を的確に捉えて、教師は指導の改善を図ること、児童生徒は自らの学習を振り返って次の学習に向かうことができるようにすることが大切です。ここでは、1. 学習評価の進め方の手順、2. 指導と評価の計画の作成のポイントについて示します。

1 学習評価の進め方の手順

- (1) 単元の目標を作成
- (2) 単元の評価規準を作成
- (3) 「指導と評価の計画」を作成

授業を行う

- (4) 観点ごとに総括する

- 学習指導要領の目標や内容、学習指導要領解説等を踏まえて作成する。
- 児童の実態、前単元までの学習状況等を踏まえて作成する。

- 1、2を踏まえ、評価場面や評価方法等を計画する。
- どのような評価資料（児童の反応やパフォーマンスなど）を基に、「おおむね満足できる」状況（B）と評価するかを考えたり、「努力を要する」状況（C）への手立て等を考えたりする。

- 3に沿って観点別学習状況の評価を行い、児童の学習改善や教師の指導改善につなげる。

- 集めた評価資料やそれに基づく評価結果などから、観点ごとの総括的評価（A、B、C）を行う。

2. 学習評価の基本的な考え方

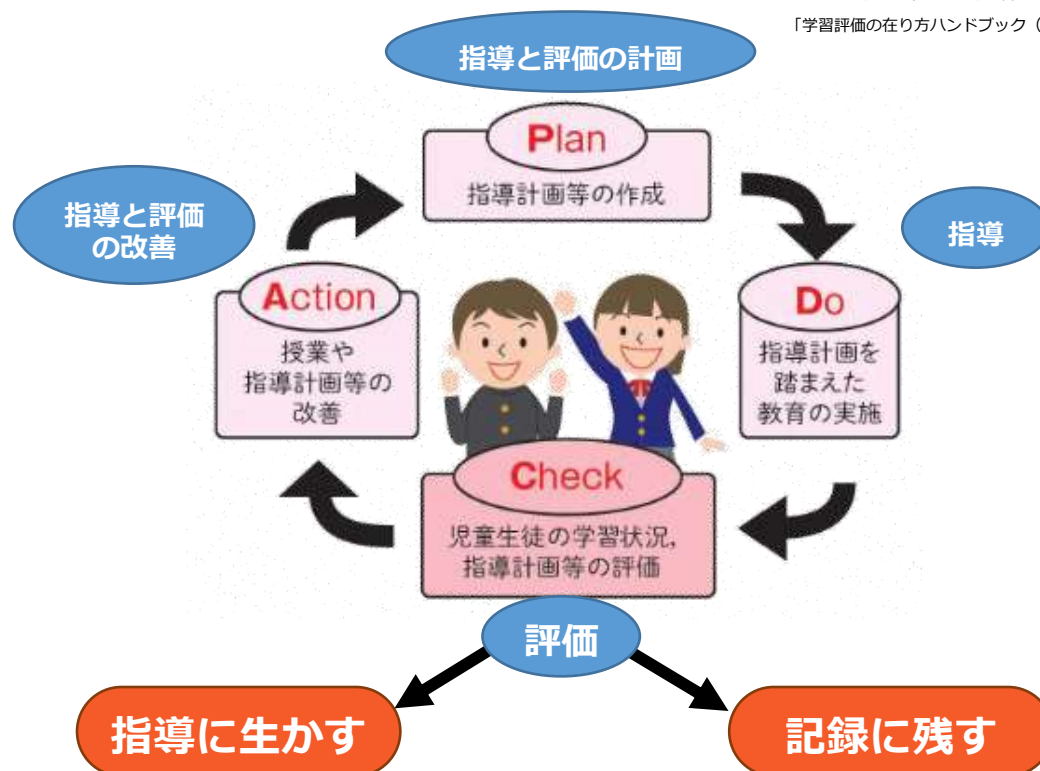
・学習評価は、学校における教育活動に関し、**児童生徒の学習状況を評価**するもの

☞教師が**指導の改善**を図る

☞児童生徒自身が、**自らの学習を振り返って**次の学習に向かうことができるようにする

単元を通してPDCAサイクルをまわしていく

国立教育政策研究所教育課程研究センター
「学習評価の在り方ハンドブック（小・中学校編）」



3. 算数科における「指導に生かす評価」と「記録に残す評価」の具体例

【指導事例】第5学年「四角形と三角形の面積」

【評価規準】三角形、平行四辺形、ひし形の面積の求め方を、求積可能な図形の面積の求め方を基に考えている。
(思考・判断・表現)

【指導と評価の計画】第1時、第3時、第4時、第6時、第7時が、上記の評価規準を達成しているかどうかを評価するよう計画を立て、第1時、第3時、第4時、第6時は指導に生かす評価を行い、第7時で記録に残す評価を行う。

時間	ねらい・学習活動	評価規準（評価方法）		
		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
1	平行四辺形の面積の求め方を考え、説明することができる。		・思①（ノート分析、行動観察）	・態①（ノート分析、行動観察）
2	平行四辺形の面積の公式をつくり出し、それを適用して面積を求めることができる。	・知②（ノート分析、行動観察）	・思②（ノート分析、行動観察）	
3	高さが平行四辺形の外にある場合でも、平行四辺形の面積の公式を適用できることを理解する。どんな平行四辺形でも、底辺の長さが高さが等しければ、面積は等しくなることを理解する。	・知①（ノート分析、行動観察）	・思①（ノート分析、行動観察）	
4	三角形の面積の求め方を考え、説明することができる。		・思①（ノート分析、行動観察）	
5	三角形の面積を求める公式をつくり出し、それを適用して面積を求めることができる。	・知②（ノート分析）	・思②（ノート分析、行動観察）	
6	高さが三角形の外にある場合でも、三角形の面積の公式を適用できることを理解する。どんな三角形でも、底辺の長さが高さが等しければ、面積は等しくなることを理解する。	・知①（ノート分析、行動観察）	・思①（ノート分析、行動観察）	
7	台形の面積の求め方を考え、説明することができる。		・思①（ノート分析、行動観察）	

思考・判断・表現

①三角形、平行四辺形、ひし形の面積の求め方を、求積可能な図形の面積の求め方を基に考えている。

①平行四辺形の面積
指導に生かす

③高さが平行四辺形の外にある場合
指導に生かす

④三角形の面積
指導に生かす

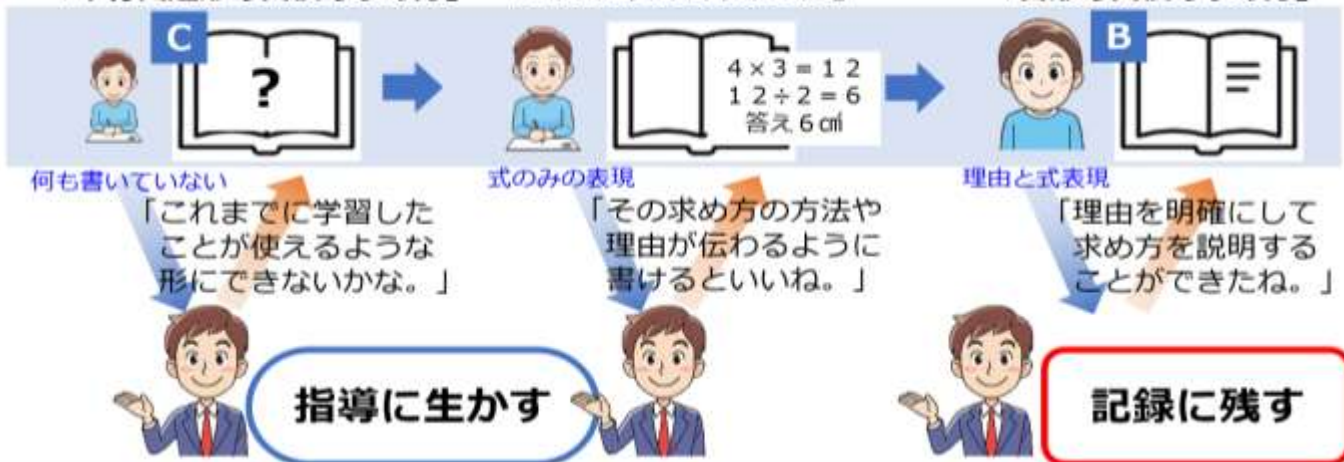
⑥高さが三角形の外にある場合
指導に生かす

⑦台形の面積
記録に残す

第1時の児童の学び
「平行四辺形の面積の求め方」

第4時の児童の学び
「三角形の面積の求め方」

第7時の児童の学び
「台形の面積の求め方」



大切なこと

・記録に残す授業までに、「C」の児童生徒を「B」に、「B」の児童生徒を「A」にするための指導を教師が行ったかどうか。